

3. リーダーとしての技能・態度の育成について

(1) 京都大学見学会の実施

例年、低学年の段階で自己の高い進路目標の設定を行うきっかけの機会も兼ねて、8月に京都大学見学会を行っているが、今年度はコロナ渦の影響で中止せざるを得ない状況であった。以下、計画していた内容及び、この研究開発における実施後の見込まれる成果について述べる。

〈実施目的〉

大学の講義体験や、将来リーダーとして活躍する海外からの留学生や大学生との交流等を通して、世界に羽ばたく人材の育成を図る。

〈参加対象者および実施予定内容〉

【参加対象者】 本校1年生の希望者

【実施予定内容】 農学部での模擬講義、海外留学生との昼食会・交流会、
農学部研究室見学、大学全般の施設見学、人間健康科学科での体験授業

〈実施計画詳細〉

農学部の近藤直教授、小杉緑子教授の2名による模擬講義（京都大学紹介や大学のグローバル化、世界の食糧問題と農業の課題、テクノロジー等について）を体験後、数グループに分かれて、農学部在籍する留学生（主として東南アジア出身）との昼食会（農学部の学食を利用。1、2名の留学生を含むグループ別で）と交流会を実施。交流会では英語をツールとして本校生徒から奈良県や本校の紹介を行い、留学生とのコミュニケーションを図る。6月から7月に準備を行い、奈良県や本校のことを留学生に分かりやすく伝えながら、活発な交流会を行う予定であった。

その後、3つのグループに分かれて以下の内容を実施する予定であった。

第1グループ 農学部研究室の見学

第2グループ 大学全般の施設見学

第3のグループ 医学部人間健康科学科での体験授業

〈実施後に見込まれる成果〉

- ・模擬講義体験および研究室見学は、高校の学習とは異なる学びの在り方を感じさせるとともに、第一線の研究現場の生の体験により、将来の夢やあこがれへの確立につながる。
- ・基礎学力を身に付けるため、高校での学習は教科別であることが多いが、大学での講義や研究室の見学を通して、いろいろな教科が横断的に関わっていることに気付かせることができる。
- ・海外からの留学生との交流は、世界共通語としての英語の重要性を感じさせるとともに、英語を母国語としない留学生との交流を通し、目指すべき将来の自分たちの海外での姿を考えさせるきっかけとなる。またアジア圏をはじめとする様々な地域からの留学生との交流により、それぞれの地域との文化の違いを感じさせるとともに、自国の文化や母国語をさらに深く理解しなければならないことを実体験として感じさせることができる。